

和歌山県白浜町番所崎、特に“北浜”に漂着した球形のココヤシおよび最大と最小のココヤシ果実の記録

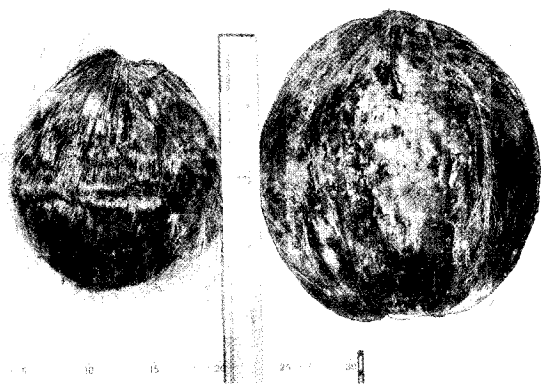
Record of spherical *Cocos nucifera* washed ashore on Bansho-zaki, particularly on “Kitahama” beach at Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan, with special reference to the largest and smallest fruit of this species

桎山 嘉郎・久保田 信 (京都大学瀬戸臨海実験所)

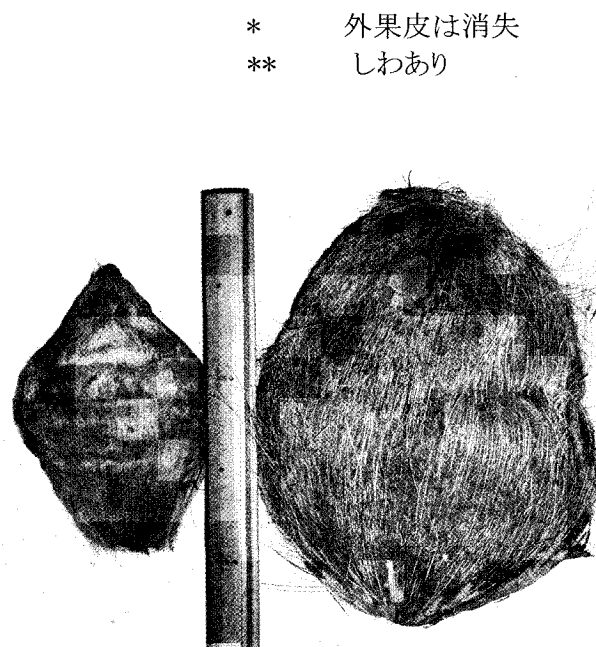
	長さ(cm) Length	最大幅(cm) Max. width	最小幅(cm) Min. width
球形	14.4	11.4*	11.0**
	16.5	15.0*	14.4
	17.3	13.8	13.7
	17.5	13.6	13.2**
	20.0	18.0	17.4
最小記録	15.3	9.8	9.2**
最大記録	21.8	18.2	16.4

和歌山県白浜町の番所崎の磯浜や砂浜に、南方より黒潮に運ばれて漂着する果実の中ではココヤシ *Cocos nucifera* L. がもつとも多いが、その中には一見すると別種のように見受けられる極めて細長い型もあった (桎山ほか, 2003; 久保田・梅本, 2004)。

今回は、過去30年間で北浜を中心とした番所崎に流れ着いたココヤシの果実20個あまりの中で、上記の報告済みのものとは正反対の球形のもの (図1) を選んで報告する。



(図1) 和歌山県白浜町の通称“北浜”へ漂着した2個の球形のココヤシ



(図2) 和歌山県白浜町の通称“北浜”へ過去30年間に漂着した最大と最小のココヤシ

5個の球形の果実は、小形から大形まであったが、長さ最大幅の比率が1.10–1.29と1から大きくはずれない値を示した。また、最大幅と最小幅の比率も1.01–1.04と1に近い値を示した (Table1)。

球形果実の記録に加えて、これまで収集した中で最大と最小の果実 (図2) も記録した (Table1)。最大の果実は、長さ最大幅の比率は1.20と1から大きくはずれていなかったが、最大幅と最小幅の比率が1.11と上記の球形果実のどれよりも大きな値を示したように、見た目にはやや細長い形状だった。一方、最小の果実は、長さ最大幅の比率が1.56で、最大幅と最小幅の比率が1.07と、かなり細長い形だった。

わが国に漂着するココヤシの果実の形状は変異に富んでおり、小さなものから大きなもの、そして紡錘体形から球形に近いものまで様々な大きさと形状のものが漂着している (中西, 1990) ので、上記のようなこれまで記録した番所崎や北浜に漂着したいずれの果実も“ココヤシ

の1品種”として確立している可能性はないだろうが、本報告のように、各地で長年かけて収集したものの変異を記録しておくのは意義あることだろう。

引用文献

- 久保田信・梅本信也. 2004. 沖縄県西表島における細長型ココヤシ果実の漂着. 漂着物学会会報, (10): 3.
- 久保田信・田名瀬英朋・桎山嘉郎・久保田信・戸部博・中西弘樹. 2003. 変わった型のココヤシの和歌山県白浜町番所崎への漂着記録. 漂着物学会誌, 1: 29–30.
- 中西弘樹. 1990. 海流の贈り物. 254pp., 平凡社, 東京.

Table 1. Spherical coconut *Cocos nucifera* stranded on the “Kitahama” beach, and Bansho-zaki at Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan with the dimension of the largest and the smallest fruit.